

## 8. 理事会・代議員会議事録

### 令和4年度 第4回 ヘルスコミュニケーション学関連学会機構理事会 議事録

会場：インターネット会議システム ZOOM

日時：令和5年1月30日（月）16:30-18:30

出席者：石川、木内、杉本、高山、中山、藤崎、宮原

陪席予定者：阿部（HCW2022）、安村（HCW2023）、奥原（事務局）

#### ○挨拶・資料確認

木内より資料の確認があった。

#### ○報告

##### 1. 事務局（担当：木内）（資料1）

木内より会員数、入会者数、退会者数、会費収入の報告があった。会員数は増加傾向で、2022年度会員からの会費収入（令和4年4月1日から令和5年1月20日まで）は277名、2,036,000円であった。

##### 2. 編集委員会（担当：石川）

石川より、2022年10月2日に編集委員会を開催した旨、報告があった。

編集委員会で提案のあった企画（ヘルスコミュニケーションを学べる大学・研究機関の紹介、ヘルスコミュニケーションのキーワード解説、編集委員会企画による特集）について報告があった。

2022年10月に第13巻第2号（原著3編、書評1編）を発行した旨、報告があった。

2023年4月に発行予定の第14巻第1号で、第14回学術集会の特集、投稿論文を掲載予定である旨、報告があった。

##### 3. 分科会報告

報告はなかった。

##### 4. ヘルスコミュニケーションウィーク 2022 報告（担当：阿部）（別添資料）

阿部より HCW2022 の収支決算報告があった。収入 2,858,000 円、支出 1,693,959 円、収支 1,164,041 円であった。

阿部より取材記事の共有と、アンケート結果の報告があった。

## 5. ヘルスコミュニケーションウィーク 2023 準備状況 (担当: 安村) (別添資料)

安村より、テーマ、会期、会場、委員、開催形態 (対面式、オンデマンド配信)、プログラム等の報告があった。

阿部 2022 では本格的な査読は実施せず、内容の基本的な妥当性の確認のみを行った。

安村 各学会でオンサイトの一般演題が5題ずつ。一般演題をオンサイトで希望する方が多かった場合、どのように選ぶか? 先着順でよいか?

藤崎 最初にその旨をアナウンスしておけばよいのではないか。

### ○議事

#### 1. 職域別分科会について (資料2)

木内より説明があった。日本歯科コミュニケーション学会と日本看護コミュニケーション学会の運営委員案が承認された。

阿部より日本看護コミュニケーション学会の運営委員について補足説明があった。

#### 2. 2023 年度以降の役員人事について (資料2、資料3)

木内より、以前に承認された指針の基づいた機構、分科会の2024年度までの役員人事案について、資料を基に説明があり、承認された。

#### 3. ヘルスコミュニケーションウィークの講演料・旅費の基準について (資料4-1、4-2、4-3)

木内よりヘルスコミュニケーション学ウィーク謝金・旅費基準(案)について説明があり、承認された。

#### 4. 2024 年度以降の役員選出法について (資料5)

木内より2024年度以降の役員選出方法案について説明があった。会員の教授、准教授、講師の数を踏まえ、現在の代議員+分科会の運営委員+正会員からの推薦として代議員を増やしてもよいのではないか。代議員は希望の分科会の評議員(兼任、最大3分科会まで)となる。各年度の日本ヘルスコミュニケーション学雑誌編集長は理事(副理事長)にする。各年度のヘルスコミュニケーションウィーク総大会長は理事とする。

提案通り、承認された。

**5. 2024 年度以降の学会誌の発行時期について（資料6）**

木内より各学会誌の発行月の案について説明があった。各学会で発行月をずらす日程案が提案され、承認された。

**6. 過去の学術集会の収支について（資料7）**

木内より資料の共有があった。

以上

## 8. 理事会・代議員会議事録

### 令和5年度 第1回 ヘルスコミュニケーション学関連学会機構理事会 議事録

会場：インターネット会議システム ZOOM

日時：令和5年5月9日（火）09:00-11:00

出席者：木内、中山、宮原、石川、高山、杉本

陪席者：阿部（HCW2022）、安村、森山（HCW2023）

欠席者：藤崎

#### ○挨拶・資料確認

木内より資料の確認があった。

#### ○報告

##### 1. 事務局（担当：木内）（資料1-1、1-2、1-3）

木内より会員数、入会者数、退会者数、会費収入の報告があった。

##### 2. 編集委員会（担当：石川）（別添 編集委員会資料）

石川より第14巻第1号（4月発行）の報告と第2号（10月発行）の予定に関し説明があった。

編集委員長が著者・共著者になっている投稿論文（招待論文ではないもの）の査読については、副委員長が対応することとする提案があった。木内より、このような規定は編集委員会規則の形式で整備して欲しいという要請があり、石川が対応することになった。

##### 3. ヘルスコミュニケーションウィーク 2022 報告（担当：阿部）（別添 HCW2022 資料）

阿部より収支決算報告があり、承認された。今後、監査役による監査を受けることとなる。

##### 4. ヘルスコミュニケーションウィーク 2023 準備状況（担当：安村）（別添 HCW2023 資料）

安村より準備委員、参加形式、プログラム、一般演題の発表方法、予算案等の準備状況の報告があった。優秀書籍賞・論文賞の準備は機構事務局が行う旨等、確認がなされた。

杉本 オンデマンド配信は次年度以降も継続するのか？

安村 中継よりオンデマンドの方が実施しやすいためオンデマンドになった。

木内 遠方の参加者や情報収集だけが目的の人のためにもオンデマンドは次年度以降も実施したほうが良いと思う。

阿部 HCW2023 は看護コミュニケーション学会と歯科コミュニケーション学会は、一般演題登録できるか。

安村 演題登録は歓迎するが、セッションを組めるかどうかは今後相談させてほしい。

## ○議事

### 1. 2022 年度決算案（資料 2）

木内より決算案の説明があった。

異議なく承認された。

### 2. 2023 年度予算案（資料 3）

木内より予算案について、派遣人件費と学術集会準備金の加算について、説明があった。

異議なく承認された。

### 3. 学会運營業務の東京大学への委託、共同事業について（資料 4）

木内より東京大学の「学内における学術団体の運營業務に関する取り扱い」について説明があった。東京大学で学会事務局等を引き受ける場合には、学会と東京大学との間で受託事業又は共同事業の契約を明示的に結ぶ必要が今後生じる。契約内容の妥当性を確保し、利益相反の問題をクリアする必要があるとあり、慎重に対処が必要である。現在はまだ学内で審議中であり、正式に決まった時点で更に検討することになった。

### 4. 医学中央雑誌への著者抄録利用許諾について（資料 5）

木内より医学中央雑誌への分科会の学術雑誌の著者抄録掲載について説明があった。

全分科会学術雑誌について、医学中央雑誌の抄録利用を許諾することで承認された。

### 5. 関連学会機構で取得した商標・ドメイン名の取り扱いについて（資料 6）

木内より 13 の商標とドメイン名の取得費・維持費について説明があった。商標名は、法的には関連学会機構の資産を理事長である木内が個人資産として管理している形態となっている。商標名については、関連学会機構法人化時に、木内より商標取得・維持の実費相当額を対価として、関連学会機構に権利を移転することが提案され、承認された。

ドメイン名については、木内が立替払いしているもの（古い時期に取得）と、学会経費で直接支払っているもの（最近に取得）がある。今後順次、立替払いから、学会経費払いに改めていきたい。ドメイン名についても、関連学会機構法人化時に、ドメイン名取得・維持の実費相当額から、関連学会機構より直接支払った金額を控除した額を対価として、木内から関

連学会機構に権利を移転することが提案され、承認された。また米国の業者で登録されているドメイン名については、料金の安い日本の業者に順次切り替えていくことになった。

6. 2024年度以降の役員選出法について（資料7）

木内より、2024年度の機構代議員の選任法は2022年度と同様の選挙方法とする案、理事の選出方法、分科会運営委員について説明があった。

資料7の方針で承認され、今後、規約化する予定となった。

7. 関連学会機構・分科会会員制ホームページ等のための会員へのUMIN ID発行について

木内より、関連学会機構・分科会会員制ホームページ等のための会員へのUMIN ID発行について、代議員会に諮りたい旨、提案があった。

異議なく承認された。

8. 2023年度代議委員会の開催について

2023年度代議委員会で上記6及び7を審議することとなった。

9. ヘルスコミュニケーションウィーク最優秀口演賞・最優秀ポスター賞の選考方法について（資料8、9）

従来通り、資料9の方針で実施することが確認された。

10. グラフィカルアブストラクトの採点基準案について（資料10-1、10-2）

木内 関連学会機構としては、メディカルコミュニケーションの新しい形態を推進する立場から、グラフィカルアブストラクトを推進してきている。HCW2023でもグラフィカルアブストラクトを出したい人には出せるようにできないか。

安村 前回の理事会で、業者と相談の上、希望者がグラフィカルアブストラクトを提出できるように調整したい。

11. 2023年度ヘルスコミュニケーション学関連学会機構優秀論文賞（応募8件）、優秀書籍賞（応募4件）の選考について（資料11-1、11-2、12）

木内より被推薦者氏名が共有され、利益相反のない選考委員長の選任が検討された。

優秀論文賞の選考委員長を高山が、優秀書籍賞の選考委員長を杉本が務めることとなった。高山、杉本より、各々下記の選考委員の推薦があり、了承された。

○優秀論文賞選考委員会

選考委員長 高山智子

選考委員 宮原哲

選考委員 須賀 万智 (東京慈恵会医科大学環境保健医学講座 教授)  
選考委員 酒井 由紀子 (帝京大学共通教育センター准教授)  
選考委員 岩隈 美穂 (京都大学大学院 医学コミュニケーション学 准教授)

○優秀書籍賞選考委員会

選考委員長 杉本なおみ  
選考委員 的場匡亮 (昭和大学)  
選考委員 福田洋 (順天堂大学)

以上

## 8. 理事会・代議員会議事録

### 令和5年度 第2回 ヘルスコミュニケーション学関連学会機構理事会 議事録

会場：インターネット会議システム ZOOM

日時：令和5年9月18日（火）12:00-14:00

出席者：（理事）木内、中山、宮原、石川、高山、杉本、藤崎

（監事）小川、萩原

陪席者：（HCW2023）安村、森山

（事務局）奥原

#### ○挨拶・資料確認

木内より資料及び前回議事録の確認があった。

#### ○報告

##### 1. 事務局（担当：木内）（資料1-1、1-2、1-3）

木内より会員数、入会者数、退会者数、会費収入の報告があった。

##### 2. 編集委員会（担当：石川）（別添 編集委員会資料）

石川より第1回編集委員会の報告があり、日本ヘルスコミュニケーション学会編集委員会規則、学会誌査読要領、機構共通投稿規定について共有と確認があった。

第14巻第2号（10月発行予定）について、原著2本、研究資料1本、総説1本、大学院紹介企画2本の予定である旨、報告があった。

第15巻第1号（2024年4月発行予定）は大会特集、投稿論文、大学紹介の予定である旨、報告があった。

藤崎 機構傘下の医療コミュニケーション学会で企画がある場合、どう進めたらよいか。

木内 ヘルスコミュニケーション学会以外は投稿を受け付けていない（依頼原稿しかない）ので、当面は投稿する場合はヘルスコミュニケーション学会誌に投稿してもらうということでどうか。

石川 機構傘下の学会で特集原稿がある場合はご相談いただければ検討する。

木内 自由投稿ではなく医療コミュニケーション学会の運営委員で話している企画原稿であれば、医療コミュニケーション学会誌の依頼原稿として扱えばよいのでは。

藤崎 検討してみる。

石川より、学会誌をメール送付ではなく、会員制の HP に掲載することは検討できないかと相談があった。木内より、近い将来、そうする予定である旨、回答があった。

### 3. ヘルスコミュニケーションウィーク 2023 準備状況 (担当: 安村) (別添 HCW2023 資料)

森山事務局長より事前参加申し込み数、演題数、協賛金・寄付金について報告があった。森山より抄録集の公開にあたり、PDF のパスワードを使用した閲覧者の対象をどこまでとするか、相談があった。大会参加者は対象で大会参加申し込みをしていない関連学会機構会員は対象外でよいか。

検討の結果、抄録集は、日本ヘルスコミュニケーション学会誌の別冊扱いのため、会員に配布することになった。

森山より、優秀演題賞の対象は当日現地で発表した演題のみが対象でよいかとの相談があった。

木内 オンデマンド配信は、対面の学術集会の開始前に配信できないか。従来は、事前配信していた。

安村 オンデマンドのみとオンデマンド+現地では条件が違ってしまわないか。

石川 オンデマンドは会期に先立って公開しないと、会期後は誰も見ないのではないか。

安村 関心がある人は会期後も見ると思う。

藤崎 広島大会では名称が「ウィーク」なので会期前に配信していたと記憶している。

中山 会期後も見たい人が見られるというイメージでいた。

高山 オンデマンドのみとオンデマンド+現地では質疑応答の有無など評価の条件が違うという考えには賛同するので、オンサイトのみを評価対象とするのでよいのでは。

▶候補演題はオンサイト発表のみ、オンデマンド配信は会期後に閲覧可能ということで決定された。

## ○議事

### 1. 2024 年度以降の役員選出に関する定款・規則の改正について (資料 2 = 前回資料 7、資料 3-1、3-2、3-3)

木内より定款と選挙規則の改正の概要について説明があった。

木内 代議員の推薦条件について「入会后 2 年以上」とするのはどうか。

宮原 入会日から 2 年と考えてよいか。

木内 入会日から 2 年でよい。

中山 役員任期を会計年度に合わせるのは経過措置としてどう規定するか。

木内 付則で言及する。

木内より上記の改正の概要に基づき、定款と選挙規則の変更箇所（赤字箇所）について説明があった。

▶以上、変更点について承認された。

## 2. 2022年度会計監査報告（資料5-1、5-2）

機構の会計について小川より妥当である旨、報告があった。

HCW2022の会計について萩原より妥当である旨、報告があった。

▶以上、承認された。

## 3. コミュニケーション誌シーマニア第2号（2024）について（資料6）

木内より内容の予定について説明があった。

▶承認された。

## 4. ヘルスコミュニケーション学関連学会優秀論文賞、優秀書籍賞について（資料7-1、7-2）

木内より、今年度の運用をふまえ、規則の改訂の相談があった。

高山 本来はヘルスコミュニケーション学会誌に投稿された論文から選ぶのが望ましい。そうすれば数と範囲が限定される。

木内 現状のヘルスコミュニケーション学会誌の投稿数と内容を考えると難しいのでは。

石川 優秀論文賞ではなく奨励論文賞など？ ヘルスコミュニケーション学会誌で賞を出すのはインセンティブになると思う。

中山 奨励論文賞をいつから制定すると事前にアナウンスしてから、賞をつくるのはどうか？

萩原 毎年ではなく2年に1度にする、例えば20本たまった時点で選ぶなど。原著論文に限らなくてもよい？

杉本 学会誌からという点には賛成する。口演発表でよかった研究を座長から発表者に投稿を推奨するなど？ 奨励賞をつくるとしても2～3年に1回などはどうか？

木内 利益相反等で人のやりくりが大変なので、選考委員長を理事に限らなくてもよいかもしれない。

杉本 奨励賞は学会誌の編集委員会で審査できるのではないか。

石川 候補を絞る工程は編集委員会でできるかもしれない。

▶継続審議となった。

## 5. グラフィカルアブストラクトの採点基準案について（資料8-1、8-2）

木内より資料を基に提案があった。

高山 イラストなどのグラフィックの評価は立場によって多様であるので、評価の難しさもあるだろう。

木内 研究発表のグラフィカルアブストラクトなので研究者視点の評価でよいのでは。

藤崎 発表者には研究者だけでなく実務家もいる。

中山 最初から評価をするのではなく、HCW でセッションを開催するなどから始めてもよいのでは。

▶継続審議となった。

## 6. その他

木内と中山から、2024年度以降の理事等の人事案が示された。

以上

## 8. 理事会・代議員会議事録

### 令和5年度 第3回 ヘルスコミュニケーション学関連学会機構理事会 議事録

会場：コラッセふくしま+インターネット会議システム ZOOM

日時：令和5年9月29日（金）18:00-19:00

出席者：（理事：対面）木内、中山、石川、高山、藤崎

（理事：ZOOM）杉本、宮原

陪席者：（HCW2023：対面）安村、森山

（事務局：対面）奥原

#### ○挨拶・資料確認

木内より資料及び前回議事録の確認があった。

#### ○報告

安村より挨拶があった。森山より配布資料を基にHCW2023の準備状況の報告があった。参加登録者数計292名、日本メディカルコミュニケーション学会学術集会シンポジウムでの演者の交代、演題数は76演題、会場のWi-Fi利用可能である旨、報告があった。

安村より、メールにて安村の関係者約100名に案内を出し、約30名が参加登録されたとの報告があった。

演題の欠席者がいた場合は、開始時間を変更せずに進行することとしている。

情報保障の準備も滞りなく進んだ旨、報告があった。

杉本 来年度HCWの準備委員会による写真撮影を許可いただけないか。

安村 発表内容の写真撮影はNGだが、学会運営に必要な写真は撮影いただいて問題ない。

#### ○議事

##### 1. 2023年度代議委員会の議題について（資料1）

木内より年内に代議員会を開催する予定である旨と、予定している議事について、説明があった。

▶了承された。

##### 2. 2024年度以降の役員選出に関する定款・規則の改正について（資料2、資料3-1、3-2、3-3）

木内より、代議員の選任方法は2022年度と同様、入会后2年以上の正会員から推薦などの旨、前回の議論を踏まえ説明があった。

木内より、理事の選出方法について、各年度の日本ヘルスコミュニケーション学雑誌編集長は理事候補、各年度のヘルスコミュニケーションウィーク総大会長は理事候補、代議員会で理事を承認する旨、説明があった。

石川 副編集長も理事候補にできないか。

藤崎 賛成する。

中山 選出理事候補と理事長指名の理事候補を立てられるようにしてはどうか。

藤崎 その方が自由度が高い。

木内 定款に理事長指名の理事候補の制度がないので、定款を変える必要がある。今回は、このままでいきたい。

木内より、分科会運営委員の選出法について、2024年度は現行+ $\alpha$ として、各分科会の運営委員を機構代議員として、事実上の信任投票で承認する旨、説明があった。

木内より、資料の赤字部分を基に、定款と選挙規則の改正の概要の説明があった（代議員の任期、運営委員の選出、経過措置、選挙は代議員のみ等の点）。

▶承認された。

### 3. ヘルスコミュニケーション学関連学会奨励賞について（資料4-1、4-2、4-3）

木内より、優秀論文賞、優秀書籍賞の選考について、選考委員会のみで審査する案が示された。

藤崎 予備委員会もあったほうがよい。

高山 応募数が増えると方法を変える必要がある。

藤崎 予備選考委員会の構成について、利益相反のある理事を除くと人が足りないので、理事1名、代議員3名などの方が進めやすい。

木内 論文賞、書籍賞ともそのように変更するか。

杉本 書籍賞の予備選考委員会の要否も応募数に依存する。

▶論文賞の予備選考委員会は理事長の推薦による委員長1名とし、委員長と代議員による委員会とする。書籍賞の予備選考委員会は廃止する方向で、承認された。規則の変更案をもとに再度審議する旨、決定された。

木内より、ヘルスコミュニケーション学関連学会奨励賞（仮称）について、編集委員会が当該年度に適切な論文があれば理事会に推薦し、理事会で決定する案が示された。

高山 将来像として、論文賞と奨励賞は別のままとするか。

木内 別のまま並列の予定である。

藤崎 特集による依頼原稿の総説は除外し、一般投稿の総説は対象とする。

宮原 本学会誌に英語論文の投稿はあったか。

石川 最近1本あった。

宮原 論文賞に応募されるような優れた英文論文を本学会誌に投稿してもらえるような流れをつくれたらよい。

藤崎 海外の英文雑誌は難しいが本学会誌に投稿するといった流れはありえる。

中山 公衆衛生学会誌は和文と英文の両方を受け付け、PUBMED に英語抄録が載る。まずはそのスタイルを目指すか。

▶奨励賞を創設する方向で承認された。名称は日本ヘルスコミュニケーション学会誌奨励賞。対象は一般投稿の原著論文、総説論文とし、次回に規則案をもとに再度審議することとなった。

#### 4. グラフィカルアブストラクトの採点基準案について（資料5-1、5-2）

▶来年度以降のHCWのシンポジウムなどで取り上げての議論を検討することとなった。

以上

## 8. 理事会・代議員会議事録

### 令和5年度ヘルスコミュニケーション学関連学会機構定時代議員会・分科会運営委員会合同会議議事録

【会場】 インターネット会議システムによるオンライン開催

【日時】 令和5年12月17日（日）18時—19時

#### 【出席者】

五十嵐、岩隈、大野、岡本、奥原、加藤、河村、木内、北澤、酒井、榊原、島崎、杉本、杉森、土屋、中山（健）、野呂、萩原、早川、藤崎、本間、宮原、宮脇、安村、八巻、渡邊（順不同）

（委任状提出）

秋山、阿部、石川、石崎、上野、河口、川島、須賀、高永、田口、中山（和）、長谷川、原木

（代議員ではない出席者（陪席））

岡本、岡田、川上、川内、服部、濱井、瓜生原、市川、木尾、長谷、山口（順不同）

#### 【欠席者】

菊川、孫、高山、武林、藤森、小川（順不同）

#### 【配布資料】

議事次第、前回議事録、機構代議員・分科会運営委員名簿、資料1-11、編集委員会報告資料

---

#### ○挨拶・配布資料確認（前回議事録、代議員・分科会運営委員名簿、資料1-11）

木内より、開会のあいさつ、前回議事録、代議員・分科会運営委員名簿、配布資料の確認があった。

#### ○報告事項

##### 1. 会員入退会の状況（資料1-1、資料1-2）

木内より、令和5年11月30日現在の会員数、入退会数、会費収入、入退会の推移について報告があった。

質問はなかった。

##### 2. 主要役員名簿（資料2-1、資料2-2）

木内より、主要役員名簿と役員人事に関する申し合わせ事項の報告があった。

質問はなかった。

### 3. 理事会活動報告（資料3）

木内より、理事会活動（2022年10月－2023年10月）の報告があった。内容は次の通り。

- ・コミュニケーション誌「シーマニア」創刊（当面年1回発行）
- ・役員改選方法の変更とこれに伴う、定款、規則の改訂提案
- ・日本ヘルスコミュニケーション学会誌奨励賞の創設

質問はなかった。

### 4. 編集委員会報告

八巻（石川の代理）より、発行・投稿の現状、「大学・研究機関の紹介」原稿の募集について報告があった。

質問はなかった。

## ○議事

### 1. ヘルスコミュニケーションウィーク 2022 会計報告（資料4）

山口（阿部の代理）より、ヘルスコミュニケーションウィーク 2022 の収支決算の説明があった。

萩原より監査の結果、妥当であることが報告された。

異議なく承認された。

### 2. 令和4年度ヘルスコミュニケーション学関連学会機構決算（資料5）

木内より、令和4年度ヘルスコミュニケーション学関連学会機構の収支決算の説明があった。

萩原より監査の結果、妥当であることが報告された。

異議なく承認された。

### 3. 令和5年度ヘルスコミュニケーション学関連学会機構予算（資料6）

木内より、令和5年度ヘルスコミュニケーション学関連学会機構の予算の説明があった。

異議なく承認された。

### 4. 会員制ホームページ運用のための会員への UMIN ID の発行について（資料7）

木内より、会員に対する UMIN ID の発行により、会員制ホームページ運用等の UMIN のサービスの利用が可能になる旨、説明があった。また、2024 年度に会員制ホームページの運用開始を想定している旨、説明があった。

異議なく承認された。

#### 5. 代議員、運営委員の改選について（資料8、資料9-1、9-2、9-3）

木内より、2024年度の役員改選に関し、代議員の選出、理事の選出、分科会運営委員の選出の規則と手順の説明があった（資料8）。

それに伴う定款・規則の改正について、木内より、以下の概要の説明があった（資料9-1）。

1. 分科会の運営委員の選出を代議員会で実施する。
2. 理事会指名による運営委員の規程を2027年度まで延長。
3. 役員任期を会計年度に合わせる。経過規程については、定款の付則で言及することにする。

木内より、定款及び選挙規則の具体的な改正内容について説明があった（資料9-2、9-3）。

異議なく承認された。

#### 6. 日本ヘルスコミュニケーション学会誌奨励賞について（資料10、11）

木内より、日本ヘルスコミュニケーション学会誌奨励賞の創設、審査対象、審査体制について以下の説明があった。また、それに関連する規則について説明があった。

- 日本ヘルスコミュニケーション学会誌掲載の原著論文、総説等で、一般投稿されたものを対象とする。編集部からの依頼原稿は含まないものとする。
- 日本ヘルスコミュニケーション学会編集委員会が過去2年間で授賞に値する論文があれば当機構理事会に推薦（最大でも3本以内）する。利益相反のある理事を除いた理事会で最終決定を行う。

次の質疑応答があった。

萩原 掲載論文数が少ないため3年にするのはどうか。

木内 受賞に値する論文があれば推薦するという規則のため、推薦がない年もあり得る。

異議なく承認された。

以上